

学校法人 大阪滋慶学園

技術、知識プラス「ハート」

1976年に歯科技工士養成校を開学して以来、医療界や産業界のニーズに応え、数多くのスペシャリストを輩出してきた滋慶学園グループ。中核となる大阪滋慶学園は専門学校の運営をはじめ、2011年には医療安全管理学を研究する大学院大学を全国で初めて開学、島根県や

鳥取県では医療看護専門学校を設立した。医療・介護の分野ではどのような人材が求められるのか、その育成方針などについて、同学園グループの浮舟邦彦総長がパナソニック健康保険組合・松下記念病院の山根哲郎院長と語り合った。

うきふね・くにひこ 専門学校や大学院大学など69校を展開する滋慶学園グループ総長で、大阪滋慶学園理事長。医療秘書教育全国協議会理事長、米フロリダ州ウエストフロリダ大など海外3大学から教員名誉博士号が授与されている。大阪府出身。



対談
パナソニック健康保険組合
松下記念病院
山根 哲郎院長
滋慶学園グループ
浮舟 邦彦総長



やまね・てつろう 松下幸之助氏により設立され、大阪・北河内医療圏の中核病院の一つである松下記念病院の院長。系列の松下看護専門学校校長も務める。母校の京都府立医科大学消化器外科臨床教授で、医学博士。鳥取県出身。

リーダー育てる職業人教育

— 松下記念病院にも多くの滋慶学園グループ卒業生が就職し、活躍されています。

山根 病院では臨床工学技士(CE)やリハビリテーションスタッフ、事務系職員、併設する介護老人保健施設の介護士を含めて現在十数人が活躍しています。各部門の責任者を務めている人も多く、滋慶学園さんを通じて優秀な人材を確保することができ、助かっています。滋慶学園さんの卒業生は全体的にレベルが高く、仕事に対するモチベーションや意欲も非常に高い。それぞれが「本当に何をすべきか」をよく理解していると感じます。どのような教育方針を掲げられていますか。

浮舟 ありがとうございます。卒業生が医療の現場で活躍していることをお聞

きし、とてもうれしく思います。本学園では「職業人教育」に力を入れています。看護師などそれぞれの国家試験に合格するための学力が最低限必須となりますが、実践で役立つ人材の育成、すなわち人間力の向上が欠かせません。チームで仕事をするうえで重要な協調性や主体性、コミュニケーション力、モチベーション、リーダーシップなどを養う人間教育、職業人教育を行っています。

山根 滋慶学園さんの卒業生はとても責任感が強い。例えばCEであれば、機械の操作やメンテナンスを少しでも怠ることで、人命にかかわる重大な医療ミスにつながる可能性があります。医療専門職としての技術向上はもちろん重要ですが、それ以上に人間性が求められるのが医療現場だと思います。技術は時間を掛

ければ身に付きますが、「ハート」は鍛えにくい。

— 医療安全の話が出てきました。滋

リスクマネジメント能力が必要

浮舟 2011年に開設しました。医療の質と安全の向上を目指し、病院や介護施設でのリスクマネジメントを研究する大学院で、全国初の試みです。医療安全管理学の修士課程は定員24人。ほぼ毎年半分が看護師、半分が医師を含めたその他医療従事者の方が入学されます。医療の現場では、多職種協働のチーム医療の重要性が高まっており、その中にリスクマネジメントにたけた人材がいるか、いないかで大きく変わってきます。修生は他の病院から引き抜きの話があるなど、当大学院の認知度も着実に高まっています。

山根 リスクマネジメントは病院経営

に直結する大きな問題です。当病院の医療安全委員会と感染症対策委員会にはトップの私が必ず出席します。問題が起こったとき、すぐに行動することが欠かせません。また、割高な注射薬を採用する方が医療ミスの回避につながるのであれば購入するなどリスク回避の投資も必要です。一部とはいえ、安全をお金で買える面もあると思います。

浮舟 大学院は研究の場ではありませんが、実践力の養成も重要で、地域行政と連携して「医療安全実践教育研究会」を立ち上げました。学生や現場の方、研究者が一緒になって課題解決に取り組んでいます。

学校法人 大阪滋慶学園

人間力ある職業人を輩出

医療福祉は地域完結型の産業

—地域医療も大きな課題です。滋慶学園グループでは、地方都市に相次いで医療看護専門学校を開校されました。その経緯を教えてください。

浮舟 地域の要請を受けて一昨年に鳥根県出雲市に、今年4月には鳥取市に開校しました。地方では看護師やリハビリスタッフなどの人材不足が深刻です。地方から都会に出て学んでも、地元で働いてくれる人は少ない。医療福祉は地域完結型の産業です。高齢化が進化する地域を支える人材を地域で育て、働いてもらうことが狙いです。雇用を生み出すこと



で、地域経済の発展にもつながればと願っています。

山根 素晴らしい取り組みですね。都会から地方に移り住む場合、医療福祉の充実がないと不安です。他の地域からも

要請はありませんか。

浮舟 光栄なことにお話を頂くのですが、学校数、規模の拡大を追っているわけではありませんで、可能な範囲内で行っているのが実情です。

—ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）の運営など地域・文化貢献事業にも取り組まれています。

浮舟 ホールが閉鎖されることを聞き、大阪の文化が衰退すると思い、引き受けることにしました。今年で運営2年目になりますが、見通しが立ってきました。観客だけでなく、利用者にとっても良いホール、「いかに使ってもらえるか」を考え取り組んでいます。

山根 当院の開設者である松下幸之助氏（パナソニック創業者）は、全国47都道府県に工場を設置しました。地域の発展、社会貢献が根底にあります。滋慶学園さんにも同じような奉仕の精神を感じます。

当病院は、地域医療支援病院の承認を受けており、公的病院が少ない北河内地域の医療の中核を担っています。京セラ式「アメーバ経営」を取り入れ、黒字化を実現しました。アメーバ経営は、組織を細分化し、各部門の組織改善を図るマネジメント手法の一種で、チーム医療の向上にも効果的です。

提携校増やしグローバル化推進

—地域の重要性が高まる一方で、医療界でもグローバル化が進展しています。

山根 数は多くありませんが、当院でも海外出身者が働いています。とても優秀で思いやりがあり患者さんから好評です。コミュニケーション、細かい日本語のニュアンスが通じないケースがあり、そこだけがネックです。

浮舟 当グループでは「海外で働ける人材の育成」も大きなテーマです。11カ国52校の海外提携校をはじめ、さまざまなネットワークを構築し、学生交流の充実を図っています。グループ全69校のうち、半数が医療介護分野で、半数がデザインや音楽、アニメーション、映画などアート分野です。グループ全体で毎年約6000人がインターンシップや留学などで海外に渡っています。

一方で、アジアを中心に当グループで学ぶ留学生も年々増えており、44カ国約1200人に達しています。短期留学生が一旦帰国し、その後長期留学で戻ってくるケースも増えています。医療界でも外国

人患者の増加や、病院の海外進出により海外人材の需要増が顕著です。日本語をしっかりと学び、国家資格を取得して日本で働く人材を多く輩出していきたい。

山根 医療界もグローバル化は避けては通れず、外国人スタッフもコミュニケーションを重点的に時間をかけてトレーニングすれば貴重な戦力となることは間違いありません。日本人スタッフについても国際感覚のある人材が欲しい。

浮舟 松下記念病院さんならびに医療現場ではどのような人材が今後求められますか。

山根 やはりハートのある人材です。当院の3大スローガンは、チーム医療、コミュニケーション、ホスピタリティです。患者さんは手術など医療技術を適正に評価することは難しい。看護師や職員の親切な対応や、思いやりのあるケアが患者さんの評価になり、最も感謝される部分です。看護学校の校長も務めていますが、学生には勉強だけでなく、恋愛や読書、さまざまな社会活動を通して、人間性を養ってほしいと伝えています。



対談後に山根哲郎院長と握手を交わす浮舟邦彦総長

業界と連携し優秀な人材を輩出

—最後に今後の抱負をお願いします。

山根 今まで以上に地元で愛される病院にしていきたいです。パナソニック系列のため福利厚生は恵まれているのですが、より職員が働きやすい環境づくりに努めていきたい。病院は人材が生命線ですので、優秀な人材を確保、育成するためにも滋慶学園さんには今後もご協力をお願いします。

浮舟 こちらこそよろしく申し上げます。これからも職業人育成を貫いていきます。卒業生が各業界でキャリアアップし、社会人として成功してくれることを常に願っています。松下記念病院さんをはじめ医療界、産業界と連携して、よりよい人材を輩出できるように努めていきます。

—ありがとうございました。